

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業名	地産地消推進事業			会計	款	項	目	大	小
				01	06	01	03	03	05
政策	05	5節	賑わいと活気に満ちた流山（産業の振興）	主管課	農業振興課				
施策	5-4	多様な方面からの農業の振興		主管課長	安蒜 康志				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	①市内産農作物 ②市民	意図	①できるだけ新鮮な状態で市内で消費される。 ②流山産農作物の良さを実感してもらう。
事業内容	市民と生産者の相互理解が深められるようフェイス・トゥ・フェイスの取組みを推進する。 ・「新鮮食味」を始めとする市内農産物直売所をPR（のぼり旗の販売、マップの配布）する。 ・市内産の米、野菜、果樹を使った料理方法等（料理講習会の開催、レシピの紹介）を周知する。			
事業開始から現在までの状況変化	・市内の中心的な農産物直売所として「新鮮食味」（流山市農産物直売所出荷組合が運営）が平成23年11月に開設され、市内各地の農作物の販売が開始された。 ・料理講習会の開催、レシピ作成にあたっては、流山市農家生活研究会や農業女子の協力を得ることとし、周知は市の広報誌やホームページを有効に活用している。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	市内に開設されている農産物直売所数	43	43	43	箇所	→→	
②	「新鮮食味」における1日平均売上額	86,771	84,965	88,506	円	→→		
③	「新鮮食味」における1日平均購入客数	100	102	108	人	→→		
④	料理講習会（市主催）への応募者数	48	55	63	人	→→		
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果	市民の市内産農産物への認知度と信頼度の向上				目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ◆太巻き寿司教室及びおせち料理講習会を開催し、地元農産物の消費拡大を図った。参加者は、それぞれ32人、15人だった。 ◆平成28年度は新たに流山産の旬な果物を使ったジャム作り講習会を開催し、16人の参加があった。 ◆各講習会等への応募は毎回定員を上回る状況にあり、市民の人気の高いことがうかがえる。			
事務事業のコスト		平成26年度	平成27年度	平成28年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		2,455,346	2,467,176	2,260,975				
事業費(b)(円)		382,346	208,176	201,475				
うち一般財源		382,346	208,176	161,975				
職員給与費(c)(円)		2,073,000	2,259,000	2,059,500				
人役・職員(人)		0.30	0.30	0.30				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	B 市が担うとともに、市民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H28)の改善計画	市内直売所の所在地等について市民にわかりやすい形で情報提供する。	③取組の課題	消費者・生産者における地産地消の機運の向上
②今年度(H28)に実施した取組	農産物直売農家マップを配布・掲出し、直売農家の紹介に努めた。	④今後の改善計画	・各団体が行うイベントに参加して、地産地消についての周知活動を行う。 ・学校給食における市内産野菜の使用拡大を図る。